

平成十一年度大会の概況

日本思想史学会平成十一年度大会は、十月三十日(土)・三十一日(日)の両日、東京女子大学を会場として開催された。

第一日目の研究発表・パネルセッションの発表者と発表題目は以下のとおりである(副題省略)。

研究発表

〈第一会場〉「中世・近世の仏教思想」

- 1、慶政における修行と禪宗への関心 (東北大学大学院) 東海林良昌
- 2、明恵の「五秘密」思想について (日本学術振興会) 前川 健一
- 3、無住道暁における禪と諸行 吉原 健雄
- 4、鈴木正三における「今時」と「来世」 (九州大学大学院) 三浦 雅彦
- 5、近世における法相理解について (東北大学大学院) 西村 玲

〈第二会場〉「近世の諸思想」

- 1、伊勢貞丈の学問・思想の性格 (中央大学大学院) 須佐 俊吾
- 2、豊宮崎文庫の創設における権威の伝承と教化の問題について (国際基督教大学大学院) 鈴木 孝子
- 3、賀茂真淵の「自然」 (日本学術振興会) 畑中 健二
- 4、石田梅岩の社会形成論 (東京大学大学院) 高 熙卓
- 5、海保青陵の「合点論」について (東京大学大学院) 韓 東育

〈第三会場〉「近現代の学問と思想」

- 1、角田柳作の日本仏教論
 - 2、美的政治思想のパラドクス
 - 3、丸山眞男『日本政治思想史研究』の虚構
 - 4、丸山眞男『開国』を読む
- パネルセッション

〈第一会場〉「垂加神道と国学」

- コーディネーター
- 1、知の普及と地域社会
 - 2、出雲大社における垂加神道と国学の共生
 - 3、近世日本における天皇權威の浮上の理由
- 〈第二会場〉「総力戦の思想」

- コーディネーター
- 1、帝国改造の政治構造
 - 2、戦時期日本の精神科学
 - 3、戦時期〈植民地社会科学〉論序説
 - 4、日本浪曼派の問題

第一日目の研究発表・パネルセッションの終了後、総会が行なわれ、評議員会より平成十年度事業計画および予算案が提出され、それおよび決算報告がなされ、それぞれ承認された。続いて平成十一年度事業計画および予算案が提出され、それぞれ評議員会案通り決定された。

引き続き、同大学学生ホールにて懇親会が開催された。

(明治学院大学研究員) 守屋 友江

(東京大学大学院) 趙 寛子

(東海大学) 澤 大洋

(葛飾商業高校) 栗原 茂幸

(日本学術振興会) 遠藤 潤

(島根大学) 小林 准士

(國學院大学) 西岡 和彦

(愛知教育大学) 前田 勉

(筑波女子大学) 子安 宣邦

(大阪大学大学院) 平野 敬和

(日本学術振興会) 宇野田尚哉

(大阪大学) 盛田 良治

(立命館大学) 宮川 康子

第二日目は、「丸山思想史学の地平」のテーマでシンポジウムが行なわれた。

趣旨説明

I 「〈日本思想史〉の全体像を中心に」

司会

丸山古代思想史をめぐって

丸山中世思想史をめぐって

丸山近世思想史をめぐって

デイスカッサント

II 「〈方法〉の問題を中心に」

司会

丸山思想史と思惟様式論

丸山眞勇における思想史と政治理論

丸山眞勇における現代・伝統・思想史

デイスカッサント

III 総合討論

(東京女子大学) 大隅 和雄

(東京大学) 黒住 真

(東京都立大学) 水林 彪

(東京大学) 末末文美士

(恵泉女子学園大学) 澤井 啓一

(東京大学) 渡辺 浩

(東京大学) 平石 直昭

(元一橋大学) 安丸 良夫

(立教大学) 川崎 修

(国際基督教大学) 松沢 弘陽

(法政大学) 飯田 泰三